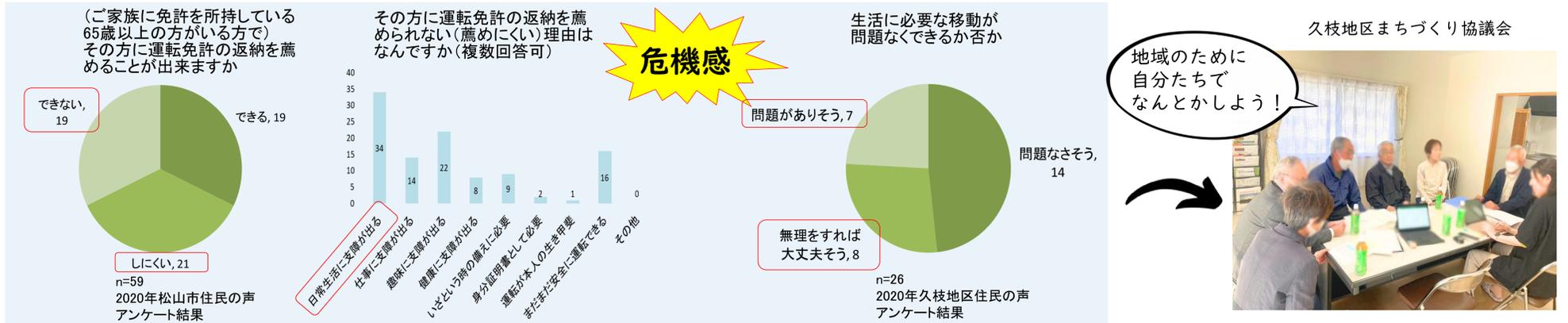


地域主体のおでかけ支援 -協賛企業がどんどん増えるワケ-

大石一浩/ネットヨタ瀬戸内株式会社（連絡先：n-seto24[at]netz-setouchi.co.jp） 久枝地区まちづくり協議会 NPO法人まるっとおのくめ NPO法人石井わくわく物語 NPO法人だんだんのわ 西堀泰英/大阪工業大学 土井勉/一般社団法人グローバル交流推進機構 鈴木雄/北海学園大学

この町に住み続けるために

愛媛県松山市にもおでかけ困難を抱える高齢者が増えています。自宅に引きこもることでフレイルの進行が加速する。自動車や自転車の運転をやめたくてもやめられない。このような状況に、久枝地区まちづくり協議会は危機感を覚えました。2020年、彼らは立ち上がり、久枝地区に住み続けるためおでかけ支援プロジェクト「チョイソコひさえだ」を始めました。



わけあって、行政からの支援は期待できません。ここに、最初の課題である「資金調達」が持ち上がります。収入の軸は「利用料」と「協賛金」。関係者が手分けをし、地域の事業者に声をかけた結果、必要額である600万円/年を集めることができました。2024年現在久枝地区は4年目。この他に3つの地域が、同様のスキームを用いたおでかけ支援に取り組んでおり、協賛金総額はおよそ2,500万円/年に迫ろうとしています。

課題を解決した「協賛企業」

協賛企業は、多様です。スーパーや病院といったおでかけの目的地になり得る所は当然、それ以外にも目的地になり得ない、例えば建設会社なども名を連ねます。これは地域の関係者がおでかけ支援の大切さを懸命に訴えた結果であり、**金銭以上に知恵を出し、企業としてまちづくりに参画する姿勢**を醸成することに繋がりました。実際多くの企業は、メリットを求めるより地域の一員として参画すること自体に重きを置いてくれています。



協賛企業の声

チョイソコひさえだ
協力事業者

マルマストリグ株式会社（建設会社）
代表取締役専務 河野さん



直接的なメリットはないと思いますが、弊社のPRや新卒の採用での学生さんへのPRをしたかったのが一つと、弊社も様々な活動をしている中で「地域の中での活動」がなかなか出来ていませんでしたので、このお話をいただいた時には「すごくいい話だな」と思いました。

地域の問題を地域の皆で解決するという点についても共感できましたので、そこは大事にしたいところではありました。

（建設会社として参画することに対して）会社として地域の問題解決に携われること、言うなれば**目の前におばあちゃんが倒れていた場合、助けますよね？**そういったことと同じ感覚というのは大事にしたいと思っていました。

チョイソコいしい
協力事業者

こみなと整形外科（病院）
院長 米湊さん



元々通院されていた患者さんで、車（免許）の返納をしたり、歩いて来られなくなった方が治療半ばで中断するケースがあったのですが、チョイソコを利用することで受けたい治療を継続できるというメリットがあります。

病院だけではなくスーパーなどもそうだと思いますが、**外出機会を増やすことによって地域が活性化されて潤う**のであれば、より周知して同じような立場の方々に利用していただければいいのではないかと考えています。

病院として地域のまちづくりに参画すること自体に違和感はありません。

チョイソコおのくめ
協力事業者

フジグラン重信（スーパー）
店長 宇野さん



私ども株式会社フジは創業50年という歴史のある中で、ここまで大きくしていただいたのは地域の皆様のおかげ、地域の住民の方があってはじめて私たちは成り立っているというのもあり、改めて感謝しています。

今のネット社会の中でリアルな店舗をかまえているメリットは、やはり**人と人のつながりが一番大事**なものであり、ご来店いただいて、物を実際に触っていただいて、従業員とお話をさせていただくことで人と人のつながりや絆を深めていけると考えております。地域の方々の生活を豊かにする・暮らしを豊かにするというのは私どもの会社の理念になりますので、その一つの方法・手段としてお互いに意見が合致したため協賛をさせていただきました。

チョイソコいして
協力事業者

ツクイ・サンフォレスト（介護事業者）
ケアマネージャー 佃さん



私自身ケアマネージャーとしてお年寄りの方と関わらせていただいています。チョイソコを利用するのは一人でお出かけが出来る元気なお年寄りでもありますので、その人が介護が必要になった時や要介護・要支援の申請をしたいときに思い出していただけるような繋がりをもてると思っています。

このチョイソコという事業は、私個人的には**数年後には社会で当たり前**のことになってくると思っているので、**はじめての段階で企業として関わっておくことが私は当たり前だと思っています**。前のめりに参画していることについて「なんでですか？」と聞かれても、私は**当たり前のことだ**と思っています。